



## イラク・シリア：「イスラーム国」と石油利権

2014年8月6日付『ハヤート』紙は、シリアの専門家の話などを基に「イスラーム国」がイラクやシリアで占拠した油田・ガス田の利用の実態について要旨以下の通り報じた。

- 「イスラーム国」は油田などの占拠により活動資金源を獲得した。原油や石油製品の販売により1カ月に1億ドル以上の資金を得ている模様。これらの製品は地元の消費者向けに販売される一方、一部が密輸されている。
- 販売価格は、原油1バーレルが20～30ドル、ガソリン1リットルが1.5ドル、ガスボンベ1本が約3.3ドル。
- 油井の中では、汲み上げや水を注入する技術が必要ない自噴の油井だけが利用されている。原油はトルコで製造された初歩的な製油施設で精製され、低品質の石油製品を製造している。施設の価格は20万～50万ドル程度。
- 「イスラーム国」による石油生産量は日量7万～8万バーレルとの説がある一方、「イスラーム国」には生産技術がないためそこまでに達していない可能性もある。収益は、兵士への給与支払い、他の団体の戦闘員の引き抜き、新規勧誘、および占拠した地域での物資配布などに使われている。
- 「イスラーム国」がイラクで占拠した油田の数はおよそ80カ所。但し、これらの油田からは原油が自噴しないため生産は行われていない模様。「イスラーム国」は油田にあった原油をシリアで低品質の石油製品に精製し、それらをモスルで販売した。

### 考察

イラクやシリアで政府や企業などによる合法的な管理を離れた石油・ガスの利用については様々な情報があるが、この報道もその一端を示している。国連安保理は、7月28日によろやく「イスラーム国」などから石油を購入することは制裁対象になりうるとの共同声明を発表したが、「イスラーム国」や地元の部族・武装勢力による事実上の盗掘・違法販売を防止する手段は全く講じていない。「イスラーム国」はイラクにおいても石油施設の占拠と保全を重視し、それらを資金源化する方針の模様である。しかし、「イスラーム国」などによる油田・ガス田の操業は、技術水準の低い収奪的なものになる可能性が高い。また、石油製品生産のためにトルコから粗末な機材を購入したり、一部とはいえトルコの業者に生産物が密輸されたりしていること、そして「イスラーム国」が石油などの生産の収益を主に自らの活動資金に充てていることは、イラクとシリアの国民全体に対する搾取に他ならないことに留意すべきである。

(高岡上席研究員)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799